

名古屋 文化 情報

2013

4

Apr.

No.349

NAGOYA
Cultural
Information



Contents

四月のうた	2
随想 延藤 安弘 NPO 法人まちの縁側育くみ隊 代表理事	3
視点 開館2周年を迎えた名古屋市科学館プラネタリウム 「世界一」を根強く支える学術的な理念 まとめ/はせひろいち	4
この人と…ズームアップ 石川 雅実さん 聞き手/倉知外子	6
ピックアップ	8
お知らせ	9



表紙

作品

「OO-I」

(2011年/H40×W80×D40cm/磁器、ステンレスポルト、接着剤)

常に自分の作りたいものを制作して来ましたが、コンセプトの重視と同時に“やきもの”としての表現の可能性も追求して来ました。その試行錯誤の結果が、唯一の表現として結実しつつある様に思います。

林 茂樹 (はやし しげき)

1972年 岐阜県土岐市生まれ

1995年 静岡県立大学国際関係学部国際関係学科卒業

1997年 多治見工業高校陶磁科学芸術専攻科修了

2008年 第8回国際陶磁器フェスティバル 銅賞、美濃賞受賞

2011年 第57回フェアエンツァ国際陶芸展 大賞受賞

四月のうた

さくら

浅利猪一郎
あさり いちろう

晴れの日の桜 雨の日のさくら

淡い夢撒いてサクラが駆け抜ける

まなうらにちらないふるさとのさくら

さくらさくら去りゆくものに恋い焦がれ

夜桜に抱かれ腑抜けになつてゆく

桜ほど日本人の心に染みついている花はなからう。絢爛な姿を誇り、やがては世の移ろいの儚さを語る桜。しだれ桜の名所、秋田角館は松木内川堤の桜並木も美しい。その川沿いに生まれたのだが、桜には悲しい思い出だけが残る。

一 昨年春、知人からの手紙には、「福島の桜は、見えない放射能への恐怖から、いつも霞んだままだった」とあった。六年前の四月、急死した子の元へと急ぐ視界には何処までも満開の桜が続いていた。そして遠い日、幼い妹を葬る春遅き山村には、早咲きの山桜が一本だけ燃えていた。あれから五十年、春になると未だにあの山桜の紅が脳裏に浮かぶ。私にとって「さくら」とは甲斐の花でもある…。

随想

まちとアートの出会い



えんどう やすひろ

延藤 安弘 (NPO法人まちの縁側育くみ隊 代表理事)

今、まちが蠢うごめいています。センイ・グルメ・アートがおいしいおでんのように混ざりあい、うごごしています。それは、ファイバーシティ(繊維のまち)からダイバーシティ(「みわたせば柳桜をこきまぜて都ぞ春の錦なりける」と古今和歌集で歌われたような、多様なまち)へともぐもぐ変身しつつある錦二丁目長者町地区(戦後は三大繊維問屋街として栄えました)。筆者はこの地区の「まちの会所」運営にかかわっています。

2013年8月10日から10月27日の79日間を期間として、「揺れる大地—われわれはどこに立っているのか:場所、記憶、そして復活」をテーマに、国際芸術展あいちトリエンナーレが開かれます。それはホワイトキューブ(美術館)だけでなく、名古屋市内のまちなかでは、長者町会場、納屋橋会場などで展開されます。

美術館に展示されるアート作品は、「そこにある」美を享受する楽しさがある反面、まちとアートの出会いは、「どこにあるの」と美や驚きを探りあてる楽しさをもたらしてくれます。オブジェ(物)としてのアートに対して、プロセス(過程)としてのアートという新機軸は、まちを内側から元気にする可能性を秘めています。

まちの人々とアーティストが出会い協働することにより、まちのDNAを再発見する旅を楽しめたら

いいナ。長者町のDNA—例えば、会所という出会いともてなしの場、人々の柔らかいコミュニケーション、都市で働き住むクオリティオブライフの追究、競争だけでなく協力して事を成す、粘る精神などがまちの記憶として呼びさまされ、ユニークに表現されることが期待されます。具体的には、建物内空きスペースや、コインパーキング等のまちの多様なスキマに、色々な出来事・表現が置かれたり振舞いとなって起こる時、人々の間に眠っていた直感が呼びさまされ、思いがけない感動という感覚的出来事が人々の魂を活性化させる状況を生み出すでしょう。

アートとまちと人の出会いにより、ひとつの形、色彩、音、匂いなどの感覚しうるものを発見し触発されること、そしてめんどろなコトがトラブルをドラマに変えるプロセスを生起させること、そのような生き生きとした楽遊経験は、人もまちも内側から元気にしてくれることでしょう。

そんなワクワク感「どこにあるの」と、地区内外の多様な人々が楽しみながらかわる中で、生きがたい現実に立ち向かうセンスとパワーが、人々の間に浸みはじめていくでしょう。そうになると、名古屋はまちとアートの出会いによる内発的まち育てムーブメントの蠢きをみせる創造都市として注目されていくでしょう。

開館2周年を迎えた名古屋市科学館プラネタリウム 「世界一」を根強く支える学術的な理念

リニューアルオープンから2周年を迎えた名古屋市科学館。特にプラネタリウムは予想をはるかに上回る人気で「朝から並んでやっと観れる」「連休には待ちの列が白川公園を1周したらしい」などなど社会現象的な話題ともなった。怒涛の2年間を振り返りながらも「これからが勝負です」と語る学芸員の言葉取材し、まさに“名古屋流”とも呼べる天文学への愛とこだわりを実感した。
(まとめ:はせひろいち)

「世界一」とは「世界初」のオンパレード

科学館全体の総工費161億円の中、25億円が投じられたプラネタリウム。その中で話題の中心はやはり「世界一の大きさ」を誇る直径35mの巨大ドームスクリーン



北側道路より天文館を望む。まるでSF未来都市の1カットのよう。

だ。世界一の星空を一目見ようと、老若男女が連日の長蛇の列を作り、オープン1周年を越えてもその勢いは留まらず、2年目も見学者数は日本一。50万人を越す勢いだ。「今、平日、週末を問わず6回の投影をしています、これ自体が想定外。オープニング時期はともかく平日は3～4回に落ち着くと思っていました」と話すのは当館の学芸員であり学術博士の毛利勝廣さん。2010年秋に全面改築のため休館し、半年後にオープンした当館だが、天文館・理工館の改築構想は2004年から始まっており、毛利さんはその具体的な青写真、装置の選抜、システム構築、テストまで一連に関わってきて、今も投影&解説も手掛ける人なのだ。「実際の投影は6人の学芸員で担当を決めて回していますが、初年度は嬉しい悲鳴を超えて殺人的でした」と毛利さん。実際、一月ほど体調を崩していた時期もあったとか。「とにかく世界一のプラネタリウムドームを扱うってことは世界初のコトだらけなんです。デジタル投影機から客席の設計まで、既成のままでは使えない。一からの手探り、試行錯誤の末のオリジナルなんです」と振り返る。

伝統的な「名古屋スタイル」を貫く

実は、取材に先立ち（取材特権を利用して…）毛利さん解説の一般投影の回を見せていただいた。余談になる

が、人混みや並ぶのが苦手な筆者には初めての観覧である。加えて、元来の最新技術アレルギーゆえ「きつと最新テク満載の派手なショーだろうな」という身勝手な偏見を持っていたのだが……観終わって僕の先入観は一気に払拭されていた。毛利さんの解説は、あくまで丁寧で温かく、自然に心が星空に導かれる。あくまで観客への「語りかけ」がベースの、いわゆるオーソドックスなスタイルが貫かれていたのだ。そして何より、継ぎ目のない内径35mの無限曲面に「本物の夜空」が再現されるコトが、これほどまでに感動的なことだとは。

「主役はあくまで星空なんです」と毛利さん。「もう少し言えば、プラネタリウムそのものが実際の星空と皆さんを繋ぐモノ。だから今日の天候、今夜の星空や月、何日後かの満月なんていう、ある意味ライブな話題は不可欠です。実際に今を話して、それでお客さんが、本物の夜空を見上げてくれれば」「世界一」を静かに語る毛利勝廣学芸員。との弁。そうなのだ。これはCGを駆使したSF映画でも、大迫力の映像と音響のショーでもない。「歴史的、専門的に言えば、東京、大阪、明石とを含め4大プラネタリウムと言われた頃から『名古屋スタイル』とも言うような語りかけ重視の伝統がありましてね、それを最新技術の中でこそ受け継いでいきたいと思っています」と話す毛利さん。そしてそのためのこだわりは、最新機器のデータだけでは語れない。



人が見られる「満天の星」がMAX値

例えばプラネタリウムの座席。隣の席から離れ一つ一つ

独立した座席は、リクライニングはもちろん左右に30度回転することも可能で、これにより観客はドームの全体が無理なく見渡せる。改築前の430



投影機に向かい放射線状にデザインされた350席のリクライニング&回転シートと映し出された星空。

席から350席に減らし、ある意味、見学者数を減らしてまでも設計者がこだわった部分である。そしてもう一つは星の数。近年の先端技術なら、スクリーンに数百万個の星々を投影する事が可能であり、実際にそれを売り物にしているプラネタリウムも存在するが、毛利さんたちが選択したのは約9000個のプラン。実際にヒトの眼が見ることができる6.5等星までの数、いわゆる本当の「降るような星空」である9000個に絞ったのだ。星の数競争へのある種の提言として、この「名古屋の判断」は、あくまで学術的なリアリティーの中にこそ、プラネタリウムの本質的な存在意義があるとする、ゆるぎない姿勢の表れでもあるのだろう。

「一般投影のテーマは月ごとに変えています。資料調べや素材集め、編集から仮上映まで、全部一から自分たちで手作りするわけです。そのための制作室やミニドームもあるんですが、投影を担当するローテーションの空いた時間でやりますからね。忙しい時期なんかだと、午前様が続くなんてこともありますね」と毛利さん。他のプラネタリウムでは、投影のデジタル化により、操作が簡便化され、業者が作ったソフトをレンタルし、係員はボタンを押すだけで刺激的な映像ショーを展開する、なんてケースも増えてきていると聞く。アトラクション的な効果を否定する気はないが、そこには学芸員との会話はなく、少なくとも“名古屋スタイル”とは180度真逆な流れである。

操作するボタンの配列にもこだわり

投影後、観客がいなくなったドーム内で、毛利さんたちが操作し解説するコンソールボックスを見せてもらった。そこには各種のボタンやフェーダーが並び、ココに座り見学者と同じ視線でスクリーンを見ながら進行していく。そしてその操作盤の配列は、改築前の旧館で使われてきたものと非常に似たものだった。「このコンソールのデザインも、星空の下で生解説をすることが前提で考えました。その結果、今までのスタイルと似た、使い慣れた配置にしました」と懐かしそうな視線で語る毛利さん。最新鋭の技術により、星の微妙な光度や色合いを限りなく実際の夜空に近づけた。「でもね、夜空を見上げる人と星との関係、繋がりは何ら変

わりないんですよ」と控えめに語る。

一人の学芸員が満員の見学者の前で投影&解説をしている間、アキシデントに備えて必ずもう一人が控えて



プラネタリウムの下の階（球体の下半分）に設けられた天文展示室。旧館の主役だった「ツァイスⅣ型プラネタリウム」も現役展示してある。

ニターで見聞きしているシステム。「やはり個性が出ますから6人6色って感じですね。その日の客層に合わせてアドリブもするし、気の利いたユーモアは自分の回への参考にさせてもらったり（笑）」と毛利さん。僕が見させてもらった毛利さんの回は、客の反応こそおとなしいが、皆がとても集中して、聞き入っているような客席だった。毛利さんは一番星の解説の後、暮れゆく夜空を演出しながら、24時間眠らない街、夜なお明るい都市生活に、軽い警鐘とともれる話題を挟んでいた。そして、ぜひ他の解説者の回も観たくなった。

「これからが勝負」 尽きぬ天文ロマン

「アンケートのデータでみると、2年たった今も連日来てくださっている入場者の過半数が『初めて』なんです。これは現象的には嬉しい限りなんですが、逆に入場フィーバーが少しずつ落ち着いてきた今からが、本当の勝負だと思います」と毛利さん。新しいリピーターや本格的な天文ファンがそろそろ戻ってくる時期。今まで全力がかけられなかったイベントや新しい企画など、やりたいことは尽きない様子だ。確かに相手が星空だから、彗星の接近や流星群など、大自然の天体ショーにネタ切れはない。「この世界一の設備を持って、何ができるのか。日々の投影で見学者の反応も感じながら、じっくり腰を落ち着けて挑み続けていきたいですね」との言葉を残し、毛利さんは次の投影の準備に足早に向かわれた。

取材を終え、職員専用通路からエントランスに戻れば、既に次の投影回を待つ長蛇の列ができていた。小学生もいれば手を繋いだカップルや孫を連れた老夫婦も。そんな列を傍目に通り過ぎながら、決して派手さや刺激だけを追い求めず、あくまで学術的な星空の再現にこだわる「名古屋スタイル」を、しっかり支え、成立させてきたのは、「本物をちゃんと愛せる」名古屋市民の気質だったのかもしれないな、と思い立った。デジタル技術を最大限に生かしながら、それに決して飲み込まれないプラネタリウムの今後に、大いに期待したい。

二人と... ズーム・アップ



現代舞踊

石川 雅実さん

芸術性の高い現代舞踊をめざして

平成23年度の「愛知県芸術文化選奨文化新人賞」を受賞された石川雅実さんは、高い技術を持つ優れたダンサーとして全国にて評価を得ている。数年前から舞踊作家としても評価され目を離せない注目株である。文化新人賞に相応しく、若手舞踊家として、これからの活躍に期待を込めてインタビューをした。

(聞き手：倉知外子)

* 岡崎っこ

取材に訪れた岡崎に在る私立の女子高校はスポーツ系、音楽系の部活動で全国大会トップレベルの成績を誇っている。ダンスももちろんだ。石川さんは母校でもあるこの学校で非常勤講師として若い世代のダンス教育に携わり、一方で、石川雅実モダンダンスKIDS STUDIOを主宰する。石川さんは生まれも育ちも生粋の岡崎っこで、現在の活動拠点も岡崎。ここから今までに、愛知、東京、埼玉、秋田、福岡、海外へと出かけている。地元が未来の舞踊家を育てて大輪の花を咲かせてくれる予感がする。

* 「君はダンスにむいてるよ」

特別な動機は無く、幼い頃は音楽に合わせて踊るのが好きという程度だったが、自然にダンスに出会う流れに導かれたようだ。運動能力は高かったので、小学校はソフト部、中学生の時は陸上部に所属した。クラブでジャズダンスがあり、国語の先生が指導していた。そこに参加して、自分なりに「少しセンスがあるかな」と思っていたころ、陸上部の顧問の先生に「君はダンスにむいてるよ」と言われた。高校ではダンス同好会にすぐに入部。そこで出会ったダンスの先生が、中学生の時、教育実習をうけたことのある団野美由紀先生だった。

* 現代舞踊との出会い

聖カタリナ学園光ヶ丘女子高等学校で団野先生の指導を受け、表現することの面白さを知った。当時、中京女子大学教授の猪崎弥生先生の目に留まり「踊るの好き？ 続けてね」の言葉に舞いあがり、中京女子大学(現 至学館大学)に入学。20歳の時、猪崎先生の作品に出演し、作品に参加しながら踊るのみでなく、表現すること、メッセージを伝えることに意義を感じた。この時に一緒に踊った平山素子さんから、舞踊の美しさだけでなく、力強さとスピードを感じ刺激をうけた。



全日本高校ダンスフェスティバル
中央が石川さん

* 活動歴が実力を語る

筆者は猪崎さんの作品を観て、恵まれた姿態でしなやかな高いテクニックをもつ石川さんの存在に早くから気づいていた。平成15年7月に開催された世界バレエ&モダンダンスコンクールのもダンダンス部門ファイナル進出で、石川さんは一躍おどりでた。それ以前には、全国のレベルの



世界バレエ&モダンダンス
コンクール

高いコンクールにて、3年連続2位、3位、奨励賞、毎日新聞社賞など、多数の入選を得ており、東京では全国から集まる選抜新人公演に出演を重ねている。こうした実績を積み重ねながら、愛知芸術文化センタープロデュース・ダンスオペラ「悪魔の物語」「UZMEーウズメー」【愛知万博】に出演した。3年前の上海国際博覧会日本館イベントステージ

「石川紫草の世界展」にも出演している。

最近では、昨年末の自主公演での新作発表と、パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)より依頼のあった「まちおこしダンス 愛・かきつばた姫」に出演。知立市に伝わる平安時代の悲しい恋物語「姫塚」の主人公かきつばた姫を石川雅実モダンダンススタジオ6名とともに創作披露しかきつばた姫を披露した。ダンサーと創作の二役を同時進行していく事は現代舞踊作家としては必然といえるが、これから人間として、表現者として深く根を這った太い幹に成長していくことに期待が膨らむ。

* 作品創りはたのしい

石川さんは「ダンサーとして表現することをよく経験してから創作したいと思っていたので、テクニックを磨くのは当然ですが、今後は身体表現者として自分自身の内面と対話してメッセージを発していきたい」と語る。すなわち、その時々的心情がテーマとなることが多く、身の回りにあること全てが素材となり閃きとなって、膨らむ。現在、ダンスが多様化しているが、石川さんは芸術性をもつ正統派の舞踊を追求しているといえる。正統派の現代舞踊とは、現代に生きる作者が何を感じ、何を想い、それを個性的に表現することでどのようなメッセージを発するか自由に創作して、ONLY ONEの世界を築くことであり、高い身体能力が求められる。「創作の糸口は、何の決まりごと無く全て自由なので、動きだったり音楽だったり、他人の作品を観ている時とか、色々なところで見つかります」と語った。

* 身体も才能

将来の夢や抱負を聞いてみた。「ダンスの好きな子をいっぱい増やしたいです」と。子どもの頃から身体能力を磨き、表現することが楽しいと感じるようになるのは心身の育成に繋がる。すべての才能



パティオ池鯉鮒企画事業
まちおこしダンス 愛・かきつばた姫



愛知県芸術文化選奨文化新人賞

は身体に宿る。しなやかな身体と心をもつ40歳の女性舞踊家は早くも自身の生きる姿を通して、未来の舞踊家を育てはじめています。

そして、芸術性の高い創作活動を日本で行うことを中心に、ふれない自分を築きながら、チャンスがあれば海外への想いもある。現在すでに3年間隔で台湾や中国(北京、上海、西安)へ渡航、韓国へも学生を連れて行き、芸術性の高い高校、大学の指導などに刺激をうけている。石川さん自身も更なる高みを目指して磨きをかけていきたいと目を輝かせて語った。

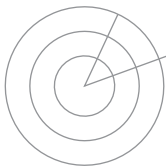


現代舞踊協会中部支部「モダンダンスエクステンション」
「モノクロの月一墮ちゆくカラダー」

* ダンス以外の楽しみは？

ダンスが楽しいという思いが溢れている100分のインタビューで、会話が弾んだが、ダンス以外の事で何を楽しみにしているかと、あえてうかがってみた。「韓国ドラマを観ながらぼんやりと…くらいで、踊っている時が一番楽しい」とにっこり。これからの担う期待の若手舞踊家と熱い握手をしてインタビューを終えた。

ピックアップ



なごや堀川狂言会 一堀川を清流に!—

来たる4月6日土曜日に、名古屋堀川ライオンズクラブ主催で「なごや堀川狂言会 一堀川を清流に!—」が名古屋能楽堂で行われる。この団体は「名古屋の堀川を清流に」を合言葉に名古屋市内を流れる堀川の浄化、美化を目的として設立した奉仕団体で、創設10周年の記念に一般市民への堀川浄化をさらにアピールすることも兼ねて狂言会を企画した。堀川は1610年名古屋築城の際に福島正則によって開削された人工の川で、名古屋の街を南北に貫いている。街に物資を運ぶ船をもたらし人々の暮らしを支え続けてきたこの川では現在、浄化や環境整備などのいろいろな試みがなされている。

この会で上演される狂言「冥加さらえ」(やまかわさとみ作、佐藤友彦演出)は、堀川を清流にするため名古屋在の「妖怪」が活躍する、この催しのための新作である。河童太郎に人知も及ばぬ密命を下す「龍神」役を野村萬斎、密命を受け小河童達を連れて堀川で愚直に任務を遂行しようとする「河童太郎」役を佐藤融、堀川に住み汚れを吸うという妖怪「甘酒女」を野村又三郎、牛馬ほどの体格で、堀川開削の時よりここに住み、魚のお供えが大好きな食いしん坊妖怪「おから猫」を二世井上松次郎が勤める。いずれも一癖ある妖怪の役を狂言師がどう勤めるか、堀川を浄化する「冥加さらえ」は成功するのか、その後の妖怪達の運命は——結末は秘密だが龍神の登場による予想外の終幕としておこす。多数の妖怪が入り乱れて活躍するところも面白いし、そこに江戸時代から名古屋に伝わる「おから猫」・「甘酒婆」の伝説を取り入れた点も面白い。また小河童達は、昨年8月14日に名古屋城で行われた「名古屋城宵まつり」のステージでオーディションにより選ばれた16人の小学生が勤める。子ども達はオーディション合格後、狂言の基礎から学ぶ稽古を積

んできた。きっとかわいらしく又しっかりとした舞台を勤めてくれるだろう。(1)



小河童 衣装合わせ

なごや堀川狂言会
一堀川を清流に!

入堀川
河童太郎 野村萬斎
河童太郎 佐藤融
甘酒女 野村又三郎
おから猫 二世井上松次郎

堀川に文化遺産を! なごや妖怪狂言「冥加さらえ」!!

平成25年 4月6日(土)
第1回 午前11時/第2回 午後2時 開演

※入場券は平成25年1月10日(木)より発売開始!
名古屋レビズホール 電話052-951-9104 平日午前10時~午後8時
ナゴヤドーム 電話0570-02-9999 コード422-1100
ローソンチケット 電話0570-084-004 エコード456800

◆入場券に附するお問合わせ
電話052-951-0311(平日午前10時~午後6時)

◆公式ホームページ
名古屋能楽堂
電話052-951-0311

堀川狂言「冥加さらえ」チラシ

名古屋市民芸術祭 2013 参加公演の募集

今年の10～11月に市内で開催する音楽・演劇・舞踊・伝統芸能の4部門から、名古屋市民芸術祭2013参加公演を募ります。優秀な公演に対し名古屋市民芸術祭賞もしくは名古屋市民芸術祭特別賞を贈ります。

どうぞふるってご応募ください!

1 参加資格

名古屋市内を^(注)主な活動の基盤として、恒常的に芸術創造活動を行っている団体又は個人。参加希望公演初日の時点において3年以上の活動実績が必要です。

参加回数の制限について

- (1)連続参加は2回までとします。
- (2)芸術祭賞受賞の翌年は参加できません。
- (3)参加回数が5回に達した団体(個人)は参加できません。ただし、5回に達してから2年を経過したのちは参加することができます。

(注)主たる練習会場もしくは主たる公演会場が名古屋市内であれば、団体所在地が名古屋市外でもご応募可能です。

2 参加部門

- ①音楽部門
クラシック、ポピュラー、邦楽等の公演
- ②演劇部門
演劇、ミュージカル、人形劇、朗読、話芸等の公演
- ③舞踊部門
バレエ、現代舞踊、ジャズダンス、民族舞踊、邦舞等の公演
- ④伝統芸能部門
邦楽、邦舞、能楽等の公演

(注)各部門に掲げられているジャンルは、参考例示です。参加される部門につきましては、参加希望者が選択してください。

3 参加の条件

- ①公演内容
参加者の主催・制作・出演による公演で企画性に富み、意欲的な内容を持った市民芸術祭にふさわしい作品であることを必要とします。教室等のおさらい会、発表会、チャリティー公演、政治的・宗教的意図の顕著な公演などは該当しません。
- ②参加方法
(1)参加は公演単位とします。ただし、2部以上の構成による公演のうち、一つの部を参加の単位とすることもできます。
(2)同一の団体又は個人による参加は1公演に限ります。
- ③参加期間
10月1日(火)から11月30日(土)までとします。
- ④公演会場
(1)名古屋市内に限ります。
(2)野外は不可とします。
(3)公演の全客席数が200席以上であることを条件とします。(全客席数=公演会場の客席数×公演回数)

4 申し込み方法

- ①申込書の請求
所定の申込書を請求していただきます。次の(1)～(4)を明記のうえ、ハガキ又はFAXで、下記申し込み先へ請求してください。折り返し申込書を郵送します。
(1)郵便番号・住所
(2)団体名及び代表者職氏名(個人は氏名)
(3)電話番号
(4)参加希望部門
- ②申し込み期限
申込書に必要な事項を記入のうえ、提出してください。
〈郵送〉平成25年5月16日(木) [消印有効]
〈持参〉平成25年5月17日(金)(17:00)

5 参加公演の決定

公演内容について審査のうえ、参加公演(20公演以内)を決定し、申込者に通知します。
なお、審査内容につきましてはは一切お答えすることができませんのでご了承ください。

6 参加助成金の交付

参加公演については、公演経費の2分の1以内で助成金(上限5万円)を交付します。
なお、参加公演になりますと、他の名古屋市の助成等は、重複して受けることができない場合があります。

7 授賞

参加公演のうちから参加部門ごとに、特に優秀な公演に対して名古屋市民芸術祭賞(副賞30万円)を、また特に表彰に値する公演に対して名古屋市民芸術祭特別賞(副賞10万円)を授与します。

8 参加公演主催者の手続き

参加公演については、次の手続きを必要としますので、あらかじめご了解ください。
①参加公演の宣伝広告物に、指定の文字を明示していただきます。
②名古屋市民芸術祭賞に関する実地審査等のため、必要な入場券を提出していただきます。

9 その他

お申し込みの際にいただいた個人情報、市民芸術祭に関する事業以外では、使用いたしません。

お問い合わせ・お申し込み先

名古屋市民芸術祭実行委員会事務局 公益財団法人 名古屋市文化振興事業団

〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目18番1号ナディアパーク 名古屋市青少年文化センター内8階

TEL 052-249-9387 FAX 052-249-9386

受付時間/月曜日～金曜日の9:00～17:00(但し祝日を除く)

伝統文化シネマ鑑賞会 4・5・6月

日本の伝統文化を未来に一人間国宝の卓越したわざ、各地域に伝承されてきた民俗行事は、時代を超えて私たちに語りかけてきます。優れた無形の伝統文化を記録した映画を月1回、各文化小劇場にて上映します。

本編終了後に、名古屋を舞台に気鋭の監督が撮影したショートフィルム「ショートストーリーなごや」映像化作品を上映いたしますので、あわせてお楽しみください。

- 日時・会場・上映作品
- 4月25日(木) 14:00～ 守山文化小劇場
 ①福岡「ふるさとからくり風土記ー八女福岡の燈籠人形ー」(34分・1987年完成)
 ②能 「世阿弥の能」(49分・1981年完成)
- 5月22日(水) 14:00～ 北文化小劇場
 ①島根「神々のふるさとー出雲神楽ー」(41分・2002年完成)
 ②染織「彩なす首里の織物ー宮平初子ー」(40分・2003年完成)
- 6月28日(金) 14:00～ 港文化小劇場
 ①人形「人形作家 秋山信子 ー心やすらぐ人形ー」(38分・2001年完成)
 ②埼玉「秩父の夜祭りー山波の音が聞こえるー」(34分・1990年完成)



福岡・燈籠人形



島根・出雲神楽



埼玉・秩父の夜祭り

- 料 金 無料(当日先着順)
- 問い合わせ 守山文化小劇場(定員:400人) TEL 052-796-1821
 北文化小劇場(定員:297人) TEL 052-910-3366
 港文化小劇場(定員:350人) TEL 052-654-8214
- 主 催 公益財団法人名古屋文化振興事業団/公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団

ナゴヤ・アート・ナビ 催し物掲載のご案内

きょうどこ行こう? 明日なに演ってるの? 知りたいときにアートナビ!

ナゴヤアートナビ

NAGOYA ART NAVI nan

「ナゴヤ・アート・ナビ」ウェブサイトでは市内文化施設の催事案内のほか、市民主催の催し物をご紹介します。掲載を希望される方はホームページ(<http://www.art758.jp>) にアクセスしてお申込みください。ご応募お待ちしております。

問い合わせ 名古屋市文化振興事業団 TEL 052-249-9387

<p>舞台VTR映像専科 ステージの感動を格調高い映像で追求します。</p>  <p>ビデオソフトの企画・制作</p> <p>有限会社 イーワン・ビテオ・システム TEL (052)896-2256 FAX (052)896-4100</p>	<p>TOKAI VIDEO SYSTEM</p> <p>ハードシステム 部門 AV機器販売部門 (家庭用) 映像企画・制作部門 放送関連部門 機器設備レンタル部門</p> <p>映像メディアの未来を創る 生きた情報を発信</p> <p>TVS 株式会社 東海ビデオシステム 名古屋市中区上筒井二丁目14-15 TEL.<052>322-6541(代表) 6562(営業部)</p>	<p>innovason Ether LACOUSTICS ES Sound lake whirlwind</p> <p>■ホール舞台音響設備 販売、設計、施工、保守</p> <p>AV 株式会社イーアンドブイ 〒464-0846 名古屋千種区城木町二丁目98 TEL 052 (761) 5400 FAX 052 (761) 0909</p>
--	---	--

2013年(平成25年)第2回 市民半額鑑賞会

中日劇場6月・7月・8月の公演が通常料金の半額でご覧いただけます。

◆申込方法

往復ハガキに下記の内容を必ずご記入のうえ、
4月12日(金)《消印有効》までにお送りください。

往信(裏面)

1. 希望公演番号(1枚1公演・同一番号の複数申込不可)
2. 人数(2人まで) 3. 〒・住所 4. 氏名(よみがな)
5. 電話番号 6. 車イス席希望の有無

返信(表面)

ご自分の住所、氏名(宛先) ※氏名には「様」をお付けください。

◆問合せ・申込先

〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目18番1号
名古屋市文化振興事業団「半額鑑賞会」係
TEL 052-249-9387

◆主催

公益財団法人名古屋文化振興事業団、
社団法人日本演劇興行協会、中日劇場

◆往復ハガキの記入例

往信(表面)	返信(裏面)	返信(表面)	往信(裏面)

※応募結果につきましては、4月25日(木)以降、返信ハガキにて通知いたします。

◆注意

- チケット料金の他に、取扱手数料(1枚につき300円)、
払込手数料およびチケット郵送料が別途必要です。
- 車イス席をご希望のお客様は、必ずその旨をご記入ください。

◆公演内容

	演 目	公演番号	日 時	料金・定員
6月	大衆演劇祭り 【出演】竜小太郎、大川良太郎、 門戸竜二 ほか	①	6月15日(土) 11:00	■ A席(2階) 5,500円を 2,750円に (各100人)
		②	6月15日(土) 15:00	
		③	6月16日(日) 11:00	
		④	6月16日(日) 15:00	
7月	早乙女太一主演公演 【出演】早乙女太一、松村雄基、 鈴木亜美 ほか	⑤	7月11日(木) 16:00	■ A席(2階) 11,000円を 5,500円に (各100人)
		⑥	7月12日(金) 16:00	
	志村けん一座第8回公演 「志村魂」 【出演】志村けん、ダチョウ倶楽部 ほか	⑦	7月18日(木) 12:00	■ A席(2階) 9,500円を 4,750円に (各100人)
		⑧	7月18日(木) 17:00	
8月	藤あや子特別公演 【出演】藤あや子、江原真二郎、 高田次郎、おりも政夫 ほか	⑨	8月13日(火) 11:00	■ A席(2階) 13,000円を 6,500円に (各100人)
		⑩	8月16日(金) 11:00	
		⑪	8月18日(日) 16:00	
		⑫	8月21日(水) 16:00	



あなたの芸術文化ライフを総合的にサポートします！
公益財団法人名古屋文化振興事業団

「友の会」会員大募集！

エンジョイコース (年会費 3,000円)

- ・事業団主催公演チケットの割引販売！
- ・事業団主催公演指定席チケットの先行販売！
- ・「友の会だより」「なごや文化情報」を毎月お届け！など

クリエイティブコース (年会費 15,000円)

- ・会員主催の公演チラシを事業団管理運営施設へ配送！
- ・会員主催の公演チラシを友の会会員へ配布！
- ・会員主催の公演で事業団の後援名義が使用できる！など

名古屋文化振興事業団 事業案内
TEL 052-249-9387

名古屋文化振興事業団 事業案内・チケットガイド

名古屋市中区栄三丁目18番1号 ナディアパーク8F
TEL 052-249-9387/平日9:00~17:00※郵送対応可

○事業団主催事業のお問い合わせ

○チケット販売

- ・事業団チケット販売システムでのチケットの販売(「チケットぴあ」の取り扱いはありません。)
- ※チケット販売システムで販売のチケットは名古屋文化振興事業団が管理運営する文化施設窓口でもお求めいただけます。(東山荘を除く)
- ・事業団友の会クリエイティブコース会員様のお預かりチケットの販売。

○文化芸術相談窓口

○チラシの受付

「なごや文化情報」編集委員

飯塚恵理人 (椋山女学園大学文化情報学部教授)
小沢優子 (名古屋音楽大学講師)
倉知外子 (オクダ モダンダンス クラスター副代表)
酒井晶代 (愛知淑徳大学メディアプロデュース学部教授)
田中由紀子 (美術批評/ライター)
はせひろいち (劇作家・演出家)

当事業団の募集する事業にお申し込みいただいた場合の個人情報、当該事業に関する事務連絡及び、当事業団の文化事業に関する案内のみに使用させていただきます。

春風亭小朝・林家正蔵 二人会

二年ぶり!小朝・正蔵の小劇場ツアー開催です。

鋭い語り口で、人の心のあやを巧みに表現する小朝師匠と、人懐っこく大らかな風情が持ち味の正蔵師匠。テレビでもお馴染みの二人が、笑いあり感動ありの高座で沸かせます。円熟味を増した二人の話芸に、ぜひ酔いしれてみませんか。

日時・会場 5月29日(水)

【昼の部】14:30 東文化小劇場

【夜の部】18:30 西文化小劇場

5月30日(木)

【昼の部】14:30 熱田文化小劇場

【夜の部】18:30 緑文化小劇場

※両日、昼・夜同じ演目になる場合があります。
ご了承ください。

出演 春風亭小朝 林家正蔵 他

料金 3,800円(全指定席)

※友の会会員は3,500円(前売のみ)

※未就学児の入場はご遠慮ください。

問い合わせ 名古屋市文化振興事業団チケットガイド
TEL052-249-9387



小朝師匠



正蔵師匠

名古屋市文化基金のご案内 名古屋の文化を創るのは、あなたです。

名古屋市文化基金(名古屋市市民文化振興事業積立基金)は、市民生活に潤いをもたらす名古屋の文化の発展のために、昭和57年に設置されました。この基金は、皆様からのご寄附と市の出資金を積み立て、その運用による果実(利息)で、市民の文化振興のための事業を実施することに役立てられています。

皆様からのご寄附をお待ちするとともに、今後ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

参加体験事業

市民の皆様が参加・体験できる事業を積極的に展開しています。

鑑賞事業

伝統芸能をはじめ、優れた舞台芸術を紹介しています。

支援育成事業

市民の皆様が行う創造的な文化活動を支援しています。

情報発信事業

「なごや文化情報」などを発行し、文化情報を広く提供しています。



名古屋市文化基金は、ふるさと寄附金(納税)制度の適用対象となります。

※名古屋市民の皆様方が、名古屋市文化基金に寄附される場合も、この制度によって税額控除を受けることができます。税控除等の詳細につきましては、リーフレット又は市公式ウェブサイトをご覧ください。

問い合わせ

名古屋市市民経済局文化振興室

TEL 052-972-3172

公益財団法人 名古屋市文化振興事業団

TEL 052-249-9390

詳しくは、市公式ウェブサイト [トップページ](#)

文化 基金

検索



感動を育める種をまこう。
名古屋市文化基金